

京都の福祉

発行 京都府社会福祉協議会



2011
11
No.515

本紙は、共同募金の
配分金によってつくられています。



主な記事

- 1面…もえくさ
- 2・3面…ホームレス問題を考える
- 4面…「お洗濯で安否確認」がスタート
- 5面…「京の企業・東北応援プロジェクト」
- 6面…第60回京都府社会福祉大会を開催
- 7面…うちのこれがイチオシ!
- 8面…夢中!・熱中!ふくしびと

たかつかさ児童館 夜間開館 の皆さん

もえくさ

CSR、企業の社会的責任。この言葉が日本で多く聞かれるようになったのは2003年頃からであると言われている。多くの企業が取り組んでいるが、活動は様々で、典型的な活動としては、情報開示や誠実な消費者対応などの取組、地球環境への配慮、ボランティア活動などの社会貢献や地域活動への参加などがある。▼共通しているのは、多くの企業が社会貢献活動を単なる慈善活動としてではなく「企業価値向上の二手段」であると捉えていること。株式市場や格付機関も、企業評価にあたってCSRの視点を取り入れるようになってきている。最近の取り組みとしては、NPOなどステークホルダー（利害関係者）とのパートナーシップを重視した社会貢献活動も増えてきている。▼本会では、いち早く2007年から中小企業を中心に、企業の本業・CSR活動と福祉の持つノウハウ・資源を有機的に結びつけ、地域の活性化、福祉力の育成、新たな企業価値などを目指す「きょうと福祉パートナー事業」に取り組んできた。▼特に、地域住民、福祉、まちづくりに繋がる社協、福祉施設などとの連携・協働による「地域展開型CSR活動」を提唱し、これまでに企業と福祉施設との協働による製品の開発をはじめ最近では、高齢者宅を訪問して洗濯物を集配することで安否確認を行う事業など様々な事業が展開されている。▼特に、京都発の取組の一つとして昨年12月から積極的に取り組んでいるのが「きょうとハート基金」。これは、企業や福祉施設が口座引落しや振込みをしていた光熱水費、通信費、ガソリン代、オフィス用品の代金などをカード決済とすることにより、金額に応じて付与されるポイントを基金として積み立て、災害時に被害を受けた福祉施設に対し、復旧のための資金を助成しようとするもの。▼東日本大震災では多くの福祉施設が被害に遭い、今なお大変厳しい状況にあるが、自施設だけでは難しい事前の備えが、相互支援型で実現できる仕組みである。▼災害はいつ、どこで起こっても不思議ではない。災害を他人事とせず、京都の福祉施設は自らの施設と入所者を守るため、企業は社会貢献活動の一つとして、京都発の福祉をテーマとした新しいCSRの仕組み「きょうとハート基金」の積極的導入を是非お願いしたい。



きょうと夜まわりの会 ミーティング風景

ホームレス問題を考える

きょうと夜まわりの会の活動に同行して

【きょうと夜まわりの会の活動】

1985年より京都でホームレスの自立を目的に週に2回（月曜・木曜）の夜まわりをはじめ、月に1回の昼ま

わり（第1日曜）や当事者同士の各種交流、相談会などの活動を行う「きょうと夜まわりの会」（以下、夜まわりの会）の本田さん、谷本さんに取材をさせていただき、活動に同行させていただきます。

厚生労働省の調査報告「ホームレスの実態に関する全国調査（概数調査）結果」によると、ホームレスの数は年々減少しているとされています。調査開始時の平成15年は25、296人（京都府は660人）のホームレスが把握されていましたが、その人数は年々減少し、平成23年の調査では10、890人（同279人）と半数以下まで減少しています（表1）。本稿では全国調査によって減少したとされるホームレスの実態を京都でホームレス支援活動を行う団体の聞き取りを通してみていきたいと思います。

夜まわりは夜8時半にメンバーが集合し、京都市の中心部を、飲み物や夏場は蚊取り線香などを手に巡回します。三条河原町からスタートし、3班に分かれての夜まわりを行います。顔馴染みのホームレスの方と会うと、持参したコピー片手に会話を交わし情報を交換し、面識のないホームレスの方を見つけると話しかけて関係作りを試みます。

【京都におけるホームレスの実態】

ホームレスの実態について、会の立ち上げメンバーである本田さんは「正確な人数は把握できていませんが、ホ

ームレスの数は減りました。昔は団塊の世代が多かったように思いますが、今は50代以下のホームレスが多いように思う」と言われます。ホームレスが減った理由として、「昔は生活保護の相談に行っても門前払いのケースが多くありました。しかし、無料低額宿泊施設などが増え、そこを起点に生活保護を申請し、家を確保する人が増えた」ことがあげられるようです。

ホームレスが減った理由として、本田さんは「行政は（以前より）努力はしている。以前なら生活保護の申請に行っても門前払いだったケースも、窓口の意識が変わり今は生活保護を受給できるようになった」ことをあげています。

しかし、会のメンバーである谷本さんは「制度は充実してきたが、制度は申請窓口に行かなければ受けられないので、路上に滞留せざるをえない。行政にはもう少しアウトリーチをしてほしい」とおっしゃっていました。さらに本田さんは「路上に残された人は、窓口にも申請にも行けないコミュニケーションをとりづらい人達」であり、「相対的に増えた『支援が届きにくい人達』への支援が重要」と言われます。

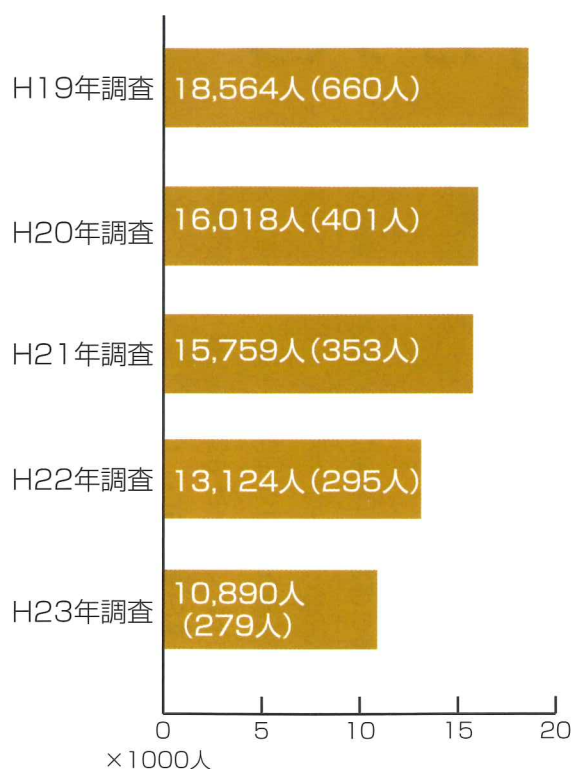
【路上から畳へ、畳から地域へ】

では、「支援が届いた」人達のその



表1.全国のホームレス数

(「ホームレスの実態に関する全国調査(概数調査)結果」より)



* () 内は 京都府

後はどうでしょうか。社会福祉協議会では平成21年度補正予算による緊急雇用対策事業の一環として、公的制度を受けるまでの一時的な生活費の貸付を行う「臨時特例つなぎ資金」の貸付を始めました。また同年10月より、ハ口

ーワークや住宅手当窓口と連携をして2年以内に離職された方を対象とする就労までの生活費・住宅入居に伴う費用の貸付けを行う「総合支援資金」の貸付事業も開始しました。

ホームレス状態にある人も緊急一時



飲み物、蚊取り線香等を持参した夜まわり人

宿泊事業により一時的に住居を定め、貸付制度や生活保護等の支援制度を活用し、住宅に入居しホームレス状態を脱するという一連の流れが築かれまし

た。しかし、これらの「支援が届いた」人達の中には仲間を失い元気をなくした人が多いそうです。その理由を本田さんは、「ホームレス時にはあった路上という「顔なじみの場」がなくなっ

てしまった」ことや「元々借金苦から路上生活に転じた人が多いのに、ゼロからはなく貸付というマイナスからの再出発になってしまっていること」にあると言われます。皮肉にも、路上

【今わたしたちに
何ができるのか】取材を通じて

夜まわりの会の活動に参加する若者は、ホームレスの人達が販売する「BIG ISSUE」の販売員の方の講演をき

す。この2つの条件だけで人はホームレスにはなりません。3つ目に、友人や家族などの身近な絆を失い、独りぼ

つ人が増えることが大切です。

ホームレス問題には雇用対策とともに地域づくりに同時に取り組まなければなりません。何より今回の取材からわかったことは、「ホームレス状態を脱した方への地域における支援」が必要になるということです。精神的なケアをはじめ、一人にさせない支援として孤立させない「居場所」を作ることや、地域住民に理解を得られるよう

企業の見守りによる安心・安全な暮らしの実現 「お洗濯で安否確認」がスタート!

背景

京都府社会福祉協議会では、平成19年度から、企業の本業・CSRと社会福祉施設等が持つノウハウを結びつけた取組み「きょうと福祉パートナー事業」を推進しています。このたび、この事業の一環で、病院や福祉施設のユニフォームやカーテンなどのリネンサービスを提供する株式会社アグティと連携し、高齢者宅を訪問して洗濯物を集配することで安否確認を行う新しい事業「お洗濯で安否確認」を開始しました。

高齢化、核家族化が進行する中で、地域で暮らすひとり暮らし高齢者、高齢夫婦が増加しています。「最期まで住みなれた家、地域で暮らしたい」という思いを持つ方は多く、安心・安全な暮らしを続けるには、様々な形での見守りが必要です。

これまで社会福祉協議会は、民生委員や福祉委員、自治会などの地域で活動してくださる方々とともに、こうした高齢者の見守り活動を続けてきました。しかし、活動の頻度をこれまで以上に高めることは難しく、対象者を毎日見守るのには限界があるのも事実です。このような中で、戸配型のサービスに安否確認機能を付加し、地域福祉活動とつなげていくことが、高齢者の地域での安心・安全な暮らしを提供することにつながると考えています。

サービスの概要

原則週1回、(株)アグティの担当者が利用者宅を訪問し、洗濯物をお預かりします。その際、訪問記録票に利用者本人や利用者宅の様子を確認し、記録します。訪問を継続する中で、気になる変化や異変を察知した際は、契約時に登録していただいた連絡先へ通知します。

■利用料金

週1回訪問の場合
月額5,000円(税込み)

■サービス実施地域

乙訓地域、山城北地域、山城南地域
京都市内(一部地域を除く)

京都府社会福祉協議会との共同事業 お洗濯で安否確認

地域の暮らしは地域のお店が支えます。定期的にお洗濯物を集配することで、安否確認も行う地域密着型の安心サービスです。

特許取得「アグネット」を使用するので、
とっても簡単・清潔で安心です。

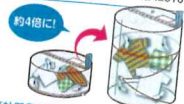
お客様は洗濯物を
アグネットに入れて
いただくだけで
結構です。

アグネットに入れたまま
洗濯を行うので、漏入・紛失の心配がありません。

定期的にご自宅まで
お伺いし、その際
安否確認もさせて
いただきます。

ビニールバックにたんで
納品いたします。
次回ご利用のアグネットも
同梱いたします。

アグネットとは(特許:第4251613号)



当社開発の特許取得洗濯用ネットです。洗濯乾
燥時にネット内容量が約4倍に膨らみ、従来より
清潔さ・仕上がり具合は格段にアップします。

清潔・安心・安全でとっても便利なポイント。

- ご面倒で意外と体力が必要な、洗濯→干す→取入れ→たたみすべて
お任せいただくことで、日常の自由な時間がひろまります。
- お洗濯物の集配時に安否確認。
- アグネットに入れたまま洗濯を行うので、漏入・紛失がありません。
- ご家庭の洗濯と違い
抗菌・消臭効果も
プラスされ、清潔。

料金 週1回集配 月額5,000円
(消費税込み)

お問い合わせ 075-633-6655

社会福祉法人 京都府社会福祉協議会
〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375
ハートピア京都5F Tel.075-252-6291(fax)

株式会社 アグティ
京都府久世郡久美山村東232-1
E-mail info@agt-kk.co.jp

Fax.075-633-6657

京都府社会福祉協議会では、これまで取り組んできた地域福祉活動者による見守り活動の展開とともに、「お洗濯で安否確認」以外にもメニューを増やしていきたいと考えています。

企業の被災者・被災地支援活動を情報発信 「京の企業・東北応援プロジェクト」

京都府社会福祉協議会は、京都災害ボランティア支援センターと連携し、京都の企業が取り組む被災者支援・被災地支援の情報をウェブサイトで発信する取り組み「京の企業・東北応援プロジェクト」を開始しました。

去る3月11日に発生した東日本大震災では、私たちがかつて経験したことのない規模の大きな被害が発生しました。震災発生直後から、京都においても多くの企業が支援活動に取り組んでいるところでは、

「京の企業・東北応援プロジェクト」では、京都府内で販売・提供・実施される企業の被災者・被災地支援活動をウェブサイトで発信し、被災者・被災地に対する「京都」からの支援の思いを可視化すること、またサイトを見た企業が自社に合った支援方法に気づくことで取り組みをさらに広げていくことを目指しています。

掲載している情報は、「京都へ避難している方への支援情報」と「被災地支援情報」です。是非アクセスしていただき、京都のできる被災地支援や被災者・被災地支援に取り組む身近な企業を見つけてください。

掲載している情報は、「京都へ避難している方への支援情報」と「被災地支援情報」です。

是非アクセスしていただき、京都のできる被災地支援や被災者・被災地支援に取り組む身近な企業を見つけてください。



検索

サイトURL

<http://www.kyoshakyo.or.jp/co-shien/>

社会福祉施設 しせつの損害補償

ホームページでも内容を紹介しています。
<http://www.fukushihoken.co.jp>

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために！

プラン1 施設業務のための補償

(賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険)

①基本補償

- 基本補償(A型)は、法人業務中、法律上の賠償責任が発生した場合、包括的に補償
- 見舞費用付補償(B型)は、賠償責任のない場合の見舞金も充実

- オプション1 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 施設の医療事故補償

②個人情報漏えい対応補償

- 個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合(おそれのある場合を含みます)に補償

③施設の什器・備品損害補償

- 施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
- 施設の現金等も補償

◆加入対象は、社会福祉法人等が運営している社会福祉施設です。

全国社会福祉協議会のスケールメリットを活かし、充実した補償内容です。

プラン2 施設利用者のための補償

(普通傷害保険)

- ①入所型施設利用者の傷害事故補償
- ②通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 施設職員のための補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険)

- ①施設の労災上乗せ補償
- ②施設職員の傷害事故補償
- ③施設職員の感染症罹患事故補償

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問合せは下記をお願いします。

団体
契約者
社会福祉法人
全国社会福祉協議会
(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン

取扱
代理店
株式会社 **福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

京都府社会福祉大会を開催

9月16日（金）、京都府民総合交流プラザ（京都テルサ）において第60回（平成23年度）京都府社会福祉大会を開催しました。当日は、京都府内（市内を含む）全域から900名近い方々にご参加いただき大盛会となりました。



第一部は、表彰式典が行われ、永年にわたり社会福祉事業に貢献された民生児童委員、社会福祉施設、団体、社会福祉協議会の役員の方々と、ボランティアとして活躍された方、また、多額のご寄付やご協力をいただいた方々が表彰状・感謝状をお受けになりました。知事表彰では102の個人・団体、府社協会長表彰・感謝は278の個人・団体、府共募会長表彰・感謝は226の個人・団体へ表彰状・感謝状が贈呈されました。式典の最後には、社会福祉の向上に取り組んでいくことを広く府民にアピールするために大会決議を行いました。



第二部は「京都式地域包括ケアをめざして」住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために」というテーマで、シンポジウムを開催しました。京都府特別参与であり京都地域包括ケア推進機構理事長の井端康彦氏より「医療・介護・福祉の各専門分野が横断的・一体的となった『京都式包括ケアシステム』の推進」についての講演をいただきました。続いて、綾部市社会福祉協議会総括管理者山下宣和氏をコーディネーターに京都府医師会北川靖副会長、認知症の人と家族の会荒牧敦子京都府支部代表、丹後福祉応援団三井健史理事長の3名のシンポジストによるシンポジウムを行いました。また、今年は式典とシンポジウムの間合いを活用して、舞台上で「たらふくまんま」、「スイートポテト」（いすれも木津川市）による人形劇・コーラスの発表により大会を盛り上げていただきました。

決議文

急速な少子高齢化の進行に加えて、雇用情勢の深刻化や「無縁社会」という言葉に象徴される絆の希薄化を背景に、高齢者の孤立化をはじめ子育て不安や児童虐待、ひきこもりなど様々な地域課題が浮き彫りになるとともに、その様相も多様化、複雑化しています。

このような中、東日本大震災が未曾有の被害をもたらした、まさに国難ともいえるべき事態におかれており、本格的な復興に向けた多くの課題が山積しております。社会福祉協議会、共同募金会、社会福祉施設、民生委員・児童委員、ボランティア、行政は、それぞれの得意分野を活かし、住民と連携・協働して、地域力を向上させ、地域福祉を推進していく役割を果たすことが一層求められています。

私たちは、この大会を契機に、地域社会の一員としてそれぞれが自らの役割を自覚し、公的な福祉サービスの充実や整備を図るとともに、地域住民の参加による新しい支え合いの仕組みづくりを進め、誰もが住み慣れた地域で安心して快適に過ごすことができる社会の実現を目指して、尽力していくことを決意するものです。

以上、決議します。

平成23年9月16日

第60回京都府社会福祉大会

オープンで
サービス向上宣言。



京都 第三者評価

検索

任意の「第三者評価」で全国でナンバー1の受診件数

京都介護・福祉サービス
第三者評価等支援機構

うちのこれがイチオシ!

京の逸品紹介します!!



障害者福祉事業所・施設のイチオシ商品を紹介するコーナーです。商品誕生のきっかけや“秘話”と共に、京都府内の隠れた逸品の「こだわり」をご覧ください!

☆このコーナーは、事業所・施設から寄稿いただいています。



パスタ皿

福知山学園第三翠光園

住所 京都府福知山市字長田宿 9 8 - 1
電話番号 0 7 7 3 - 2 7 - 5 7 5 7
FAX番号 0 7 7 3 - 2 7 - 2 1 3 5



雅グループが心を込めて作成した陶器を触っていただき、手作り陶器のあたたかさを感じて下さい。

是非皆さんも一度、最近では地域の方々への陶芸教室を開催しています。

粘土に心と気を込めて世界にひとつだけのあったかい陶器。

福知山学園第三翠光園の雅グループで行っています陶芸活動では、日々ご利用者一人ひとりが真剣な眼差しで作品作りに取り組んでいます。

全てが手作り、土練りから粘土の成形と色々な陶芸専用の道具をはじめ、オリジナルで考えた治具なども使い一つの作品を作り上げています。ちょっとした力加減が焼き上がった作品にダイレクトに現われ、それに色が付くことで味が出て、想像以上の奇跡の作品が焼き上がることもしばしばです。作製する陶器はお皿を中心に、茶碗、コップなど食器類をはじめ、花瓶や鉢、また最近では置物作りにも挑戦しています。

完成した作品は、地域の店舗での常設販売をはじめ、各種イベントでの販売、またショッピングセンターやレジャー施設の店頭をお借りしての販売活動など、地元の方々を中心に、少しずつではありますが、施設内で行っている陶器作りの活動を知っていただく機会が増えています。その時にはお客様からの要望をお聞きしたり、アドバイスを取りながら次の作品作りに繋がります。また以前には敬老の日の贈答品として注文を受けたり、

●●●●●●●●●● 読者プレゼント ●●●●●●●●●●

■ 5名の方に紹介商品をプレゼントします。

応募方法：「京都の福祉」の感想、氏名、住所、電話番号をご記入の上、ハガキ、ファックスもしくはメールにて右記宛にお送りください。(メ切：平成24年1月末)

なお、発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。また、商品は販売事業所・施設より直送いたします。(当選者の住所・氏名を事業所に提供いたしますのでご了承ください。)

■ 宛先

京都府社会福祉協議会「京都の福祉」担当 宛

メール：so-mu@kyoshakyo.or.jp

FAX：075-252-6310

住所：〒604-0874

京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375

FAX

お名前			
住所			
「京都の福祉」の感想		連絡先	☎

FAX: 075-252-6310 (京都府社会福祉協議会)

プロフィール



施設名: (福) 京都保育センター
たかつかさ児童館 (京都市北区)
氏 名: 溝口 晋太郎
職 種: 児童厚生員
経験年数: 2 年半
好きな言葉: 「努力できることが才能である」(松井秀喜の言葉より)
夢中になっていること: 「自転車で京都の観光スポットを回ること」

夢中!・熱中!ふくいびと

～だから続けたい この仕事～

福祉の現場で働く人たちの熱い思い・メッセージを伝えるコーナーです。京都市内で「熱い福祉」を「夢中」で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいを「生」の声でお届けします。

一人の子どもの成長を地域で育む

たかつかさ児童館 溝口 晋太郎さん

私は大学生のときにボランティアサークルで学童保育に出会い、そこで児童に関わる面白さを感じ、ボランティアと非常勤職員を経て、現在の児童館という児童福祉施設で働くことにしました。

児童館で働いてみると、児童厚生員という職種の幅の広さにとても驚きました。一日の仕事を見ると、朝は乳幼児親子のサークルで乳幼児の子どもたちの発達や親の仲間作りの場を援助するところからはじまり、午後は小学生の共働き家庭の児童を保

育します。夕方の17時～18時半は中高生の時間で、学校帰りや塾に行く前に、おしゃべりやギターを弾いたりなど中高生の活動の場を援助します。

今までの体験から学童の子どもを保育する仕事なのだと思い込んでいた矢先、様々な仕事とぶつかり、不安でいっぱいになりました。しかし、児童館は0歳～18歳のどの世代の子どもたちとも関わることでできる児童分野で唯一の仕事なのだと思いきや、考え、この仕事に取り組んでいます。

ある時、中高生や児童の親に「そんなに固くならなくていいのに」と言われたこともありましたが、私なりに関わる機会を作って、気持ちを伝え合い、今ではいろんな人から「みそうち」とあだ名で呼ばれ、本当に嬉しく思っています。

児童館はまだまだ知られておらず、地域にはあるけれど何をしているところ?と感じている人も多いかと思



います。しかし、0歳～18歳までの子どもならばだれでも利用できるみんなの「居場所」であり、そこには子どもに関わる親や地域の人などが集まり、一人の子の成長をみんなで見ることができます。私はここでそんな子どもたちと一緒に成長の一途を辿っていきたくて考え、これからも働きつづけていきたいと思っています。

「京都の福祉」へのご意見、ご感想、とりあげてほしいテーマなどをお寄せ下さい。表紙の写真も募集中です。(テーマ「笑顔」)

本会へのご意見等は、左記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

京都の福祉

発行所 京都府社会福祉協議会

発行人 宮本 隆司

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375

TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310

URL <http://www.kyoshakyo.or.jp>

